

「まちに希望の共有ない」

「まちに希望の共有ない」 調査結果を中間報告

釜石で
シンポジウム

東京大社会科学研究所の市民文化会館で開かれた。昨年七月と九月に実施した同市での総合調査「釜石に希望はあるか」は三日、釜石市について中間報告し、製



釜石調査の中間報告を踏まえ、地域における希望の共有について意見を交わしたシンポジウム

造業を中心とした産業の再生や都市イメージなどの視点から、地域における希望の再生について市民と意見交換した。

同研究所の中村尚史助教授が調査概要を報告。▽地域社会と中核企業の依存と反発の複雑な関係を維持してきた▽企業間や産業間の連関性が薄く市内外のネットワーク形成が弱い▽地域全体の希望といえる目的が共有されていないなどを指摘した。

その上で、地方の希望再生に向けて①ネットワーク形成に欠かせないも

②希望の共有に必要なもの③歴史や産業、環境、文化をつなげ希望の再編成に寄与するもの④の三つは何か、という新しい疑問を提示した。

中村圭介教授ら四人がそれぞれの研究テーマについて報告。岩手大人文社会科学部の竹村祥子助教授は「触れてはいけない」と思っていたマイナスの部分だが、実は希望の種だと分かったのが一番の成果」と評価。市民を代表し、福島屋専務の遊佐俊一さんは「(ドラマを描ける)ストーリーが釜石にはたくさんあるという報告に勇気づけられた」と語った。

調査は二〇〇七年度まで三年間の同研究所のプロジェクトの一つ。歴史

文化、地域振興政策など五班に分かれて調査し、最終年度に報告書をまとめる。